

新興国レポート

トルコが3会合連続で利下げ

主要新興国が引き締め動く中であってトルコは金融緩和を継続

- ▶ トルコ中央銀行は11月18日、3会合連続で利下げを決定。
- ▶ 当日のトルコリラは対ドルで一時前日比4%近く下落。年初来では30%を超える下げ。
- ▶ 通貨安が輸入物価を押し上げ、10月の生産者物価上昇率は約19年半ぶりの高水準に。
- ▶ 今後も利下げが続く場合、物価の更なる高騰で景気回復が遅れる可能性も。

(1) トルコが3会合連続利下げ

- ・ トルコ中央銀行は11月18日の金融政策決定会合で、政策金利を16%から15%に引き下げることを決めました。利下げは9月から3会合連続で、合計の下げ幅は4%となりました。物価高やFRB（米連邦準備制度理事会）が量的緩和の縮小を決めたことによる通貨下落懸念等を背景に、11月11日にメキシコとペルーが4会合連続で利上げを決める等、主要新興国が引き締め動く中であって、トルコは金融緩和を続けています（図表1）。トルコ中央銀行は声明で、次回12月の会合まで現在の金融緩和姿勢が続く可能性があることも示唆しました。

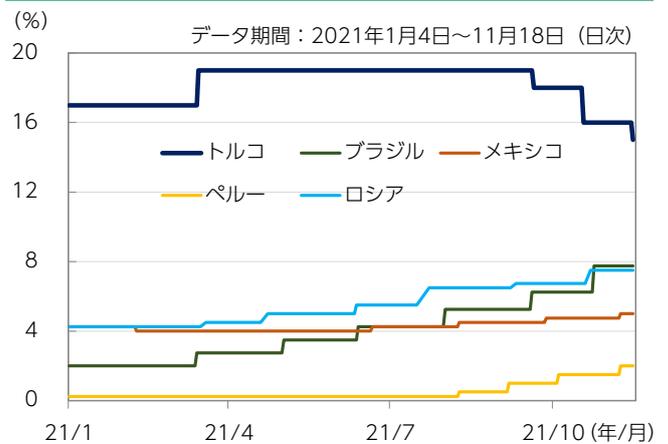
(2) 利下げ決定を受けトルコリラが急落

- ・ 利下げ決定を受け、18日のトルコリラは対ドルで一時前日比4%近く急落しました。年初からの下落幅は30%を超えています。また、10年国債金利は利下げ決定にも関わらず前日比0.45%上昇し、約1ヵ月ぶりの高水準となりました（図表2）。
- ・ 通貨安が進む中での利下げ決定は、17日の与党の会合で「金利と闘う」と演説するなど、景気刺激のため低金利を好むエルドアン大統領の意向を反映したものと見られています。

(3) 通貨安で物価が高騰

- ・ 通貨安が輸出企業の追い風となり、トルコの9月の輸出額は単月として過去（1984年以降）最高の208億ドル（約2.4兆円）を記録しました。一方、通貨安は、輸入物価の上昇等を通じてインフレをもたらしています。10月の消費者物価の上昇率は前年同月比19.9%と2019年1月以来、また生産者物価の上昇率は同46.3%と2002年6月以来の高水準となっています（図表3）。
- ・ 仮に今後も利下げが継続される場合、物価が更に上昇して国民生活に与える悪影響が大きくなり、景気回復が遅れる可能性があると考えます。

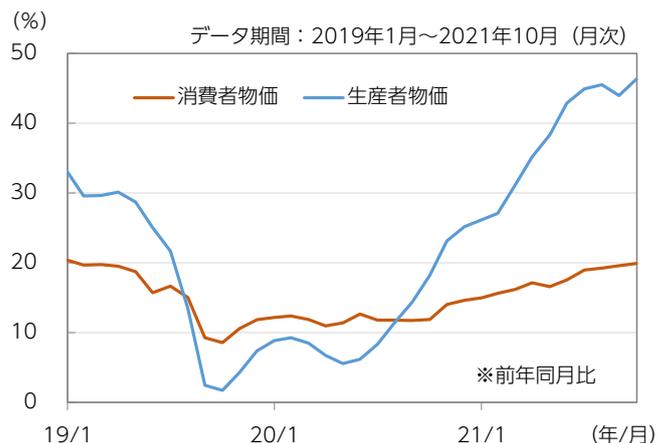
図表1：トルコや主要新興国の政策金利推移



図表2：トルコ10年国債金利や通貨の推移



図表3：トルコの物価推移



出所) 図表1～3はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>